平成20年11月6日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ア サ カ 理 研
代表者名 代表取締役社長 山 田 慶 太
（コード番号：５７２４）
問合せ先 執行役員管理本部長 鈴 木 忍
TEL．024-944-4744(代)

# 平成20年９月期並びに平成21年９月期の業績見通しについて

本資料は平成20年10月１日に公表した内容と同様のものです。

平成20年９月期（平成19年10月１日～平成20年９月30日）における当社の業績見込み及び平成21年９月期（平成20年10月１日～平成21年９月30日）における当社の業績見通しは、次のとおりであります。

【連結通期】 （単位：百万円・％）

| 決算期 / 項目 | 平成21年９月期（計画） | | | 平成20年９月期（実績見込み） | | | 平成19年９月期（実績） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 構成比 | 前年比 | | 構成比 | 前年比 | | 構成比 |
| 売上高 | 14,442 | 100.0 | 106.3 | 13,592 | 100.0 | 129.0 | 10,540 | 100.0 |
| 営業利益 | 756 | 5.2 | 95.2 | 794 | 5.8 | 127.6 | 622 | 5.9 |
| 経常利益 | 704 | 4.9 | 93.1 | 756 | 5.6 | 132.0 | 573 | 5.4 |
| 当期純利益 | 373 | 2.6 | 94.7 | 394 | 2.9 | 209.9 | 187 | 1.8 |
| 1株当たり当期純利益 | 146円43銭 | | | 192円33銭 | | | 458円18銭<br>(91円64銭) | |

【単体通期】 (単位：百万円・％)

| 決算期 / 項目 | 平成21年９月期（計画） | | | 平成20年９月期（実績見込み） | | | 平成19年９月期（実績） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 構成比 | 前年比 | | 構成比 | 前年比 | | 構成比 |
| 売上高 | 14,442 | 100.0% | 106.3 | 13,592 | 100.0 | 129.0 | 10,538 | 100.0 |
| 営業利益 | 750 | 5.2% | 95.3 | 787 | 5.8 | 127.1 | 619 | 5.9 |
| 経常利益 | 702 | 4.9% | 93.5 | 750 | 5.5 | 131.3 | 572 | 5.4 |
| 当期純利益 | 372 | 2.6% | 93.7 | 397 | 2.9 | 212.6 | 186 | 1.8 |
| 1株当たり当期純利益 | 146円02銭 | | | 193円83銭 | | | 455円75銭<br>(91円15銭) | |
| 1株当たり配当金 | 25円00銭 | | | 25円00銭 | | | 75円00銭<br>(15円00銭) | |

ご注意：この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行なうに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書（並びに訂正事項分）」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行なうようお願いいたします。

（注）１．平成 20 年 7 月 10 日付で、株式１株につき５株の株式分割を行っており、平成 20 年９月期の１株当たり当期純利益及び配当金については、期首に株式分割が行われたものとして計算しております。そこで、株式会社ジャスダック証券取引所の公開引受責任者宛通知「『上場申請のための有価証券報告書』における１株当たり指標の遡及修正数値の取扱いについて」（平成 20 年４月３日付 JQ 証（上審）20 第２号）に基づき、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の１株当たり指標の推移は、（）書きで記載しております。

２．平成 21 年９月期の１株当たり当期純利益及び配当金は公募株式数を含めた予定期末発行済株式数 2,550,000 株により算出しており、第三者割当増資による 90,000 株は考慮しておりません。

【平成 20 年９月期業績見込みの前提条件】

１．連結通期

（全般的な見通し）

当社の主要な顧客が属する水晶業界におきましては、当期後半より先行き不透明感が出てきているものの、前期比において好調な生産実績を示しております。また、当社の主力製品である金及び銅の相場についても、後半においては不安定な動きを見せているものの、通期で見ると高値で推移しております。

このような市場背景のもと、市場拡大が見込まれている貴金属事業に積極的な営業展開を行い、安定的に収益を拡大するとともに、環境事業の既存顧客を維持しつつ、積極的に新しい事業展開を行っております。これらにより、増収増益を見込んでおります。

（売上高）

環境事業においては、不採算製品の廃止を計画していることから減収となる見込みでありますが、貴金属事業に関しては、好調な市況及び貴金属相場のもと、積極的な営業展開により、グループ全体の売上高では、13,592 百万円（前期比 29.0%増）と増収を見込んでおります。

（売上原価・販売費及び一般管理費）

堅調な市況及び貴金属相場により増収を見込んでおり、それぞれの売上の増加に応じて材料費は増額になると見込んでおります。販売費及び一般管理費については、内部監査室の設置、営業人員、経理課要員の増員等により人件費が増加し、その他株式上場準備に伴う印刷費用や監査費用等の発生もあり、販売費及び一般管理費は増加する計画で、売上原価、販売費及び一般管理費合計では、12,798 百万円（前期比 29.0%増）と見込んでおります。

（営業外損益）

営業外収益では、受取利息、受取賃貸料、保証料返戻金等を含め、27 百万円を見込んでおります。営業外費用では、支払利息、雑損失等を含め、65 百万円を見込んでおります。

２．単体通期

連結通期と同様の前提条件で業績予想を作成しております。

ご注意：この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行なうに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書（並びに訂正事項分）」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行なうようお願いいたします。

【平成21年９月期業績見通しの前提条件】

３．連結通期

（全般的な見通し）

当社の主要な顧客が属する電子部品電子デバイス業界におきましては、世界的な景気後退懸念が台頭しはじめ、先行き不透明感が出てきております。また、当社の主力製品である貴金属や非鉄金属の相場についても先行きが見通せない状況となってきており、今後につきましては予断を許さない状況であります。

このような状況のもと、貴金属事業において、積極的な営業展開により新規顧客獲得に努め収益を拡大するとともに、環境事業の既存顧客を維持しつつ、積極的に新しい事業展開を行ってまいります。これらにより増収となるものの、貴金属や銅の相場が若干下降するものと設定していることや、株式上場に伴う費用等により一般管理費が増加することなどにより、減益となる計画であります。

（売上高）

貴金属事業において、積極的な営業展開により集荷を伸ばす計画で、環境事業、その他の事業においては、水処理用ろ過材などの新しい事業や製品の販売拡大に注力する計画であります。貴金属、非鉄金属の市況に関しましては、平成21年９月期において前期見込みとの比較において若干の下降を見込んでいるものの数量は増加する計画で、グループ全体の売上高では、14,442百万円（前期比6.3%増）と増収を見込んでおります。

（売上原価・販売費及び一般管理費）

貴金属事業の積極的な営業展開による集荷の増加に伴い、材料費は増額になると見込んでおります。販売費及び一般管理費については、総務人事業務、経理課要員の増員等により人件費が増加し、株式上場に伴い発生する新規上場料や上場告知広告費用、IR関連費用等を見込み、販売費及び一般管理費は増加する計画で、売上原価、販売費及び一般管理費合計では、13,686百万円（前期比6.9%増）と見込んでおります。

（営業外損益）

営業外収益では、受取利息、受取賃貸料、雑収入等を含め、4百万円を見込んでおります。

営業外費用では、支払利息、雑損失等を含め、56百万円を見込んでおります。

４．単体通期

連結通期と同様の前提条件で業績予想を作成しております。

以上

ご注意：この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行なうに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書（並びに訂正事項分）」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行なうようお願いいたします。